

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	22	-	事業名	ごみ啓発事業	担当部課	くらし文化部 環境課
------	----	---	-----	--------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	(1)	万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち		
		分野別項目	(2)	ごみの減量化・資源化を進める		
		施策の進め方	(1)	ごみの減量化・資源化		
	まちづくり 行程表	フラッグ				
		政策分類				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ごみ啓発事業として、次のものを実施 ①愛・Nクリーン ②リサイクルマーケット ③環境フェア ④コンポスト等購入補助				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 5R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リペア)に対する関心を高め、ごみの減量や分別などのマナーの向上を図る。				
	事業を構成する事務事業	① ごみ啓発事業	改善・見直し	④		
	②		⑤			
	③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度
	事業費(A)		千円	予算	/	/	/
決算				/	/	/	2,571
人件費(B)		千円	決算	/	/	/	5,347
総コスト(A)+(B)		千円	決算	/	/	/	7,918

成果推移	成果指標	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	A	ごみの排出量	kg	目標	13,964,579	14,143,575	14,417,031	14,667,599
実績				14,143,010	14,312,769	14,018,403	13,694,272	
B			目標					
C			目標					
			実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 5Rを推進することで、ごみの減量につながるため。一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標値から算出して設定								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民の5Rに対する関心は高まってきている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 成果指標の目標値は達成できている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 学生、単身世帯等のごみ減量意識が低いと思われる市民に対しての啓発

今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を行うことで、ごみ減量に対する意識を高めていく。
--------	---

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

事業名 **ごみ啓発事業**

番号	①	事務事業名	ごみ啓発事業										
----	---	-------	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 事務事業の目的

対象 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	ごみ啓発事業として、次のものを実施 ①愛・Nクリーン ②リサイクルマーケット ③環境フェア ④コンポスト等購入補助
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 5R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リペア)に対する関心を高め、ごみの減量や分別などのマナーの向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度
事業費	千円	予算				3,378
		決算				2,571

3. 活動推移

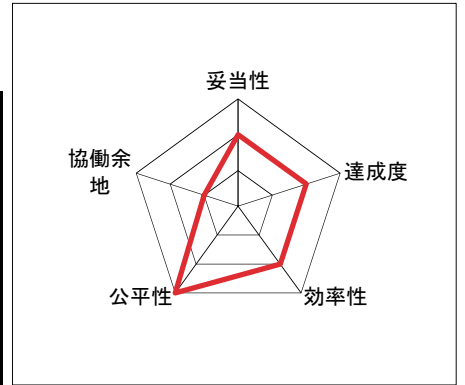
活動指標	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
愛・Nクリーン参加者数	人	目標	500	500	1,000	1,000	
		実績	442	1,138	1,002	990	
リサイクルマーケット参加者数	人	目標	500	500	500	500	
		実績	約450	約500	約500	約400	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市民の5Rに対する関心は高まってきている。

5. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	2
効率性	2
公平性	3
協働余地	1



6. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)

大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を行うことで、ごみ減量に対する意識を高めていく。